

令和6年度 新潟県学校栄養士協議会 全体研修会報告

令和6年6月14日（於：新潟県自治会館）

開会の挨拶

新潟県教育委員会 教育長 佐野哲郎 様

今年度も「キラッと新潟米☆地場もん献立」を通じて、新潟の食文化や農林水産業への理解を深められるような取組をお願いしたい。新井中央小学校で給食の時間を参観した。子どもがごはんを一粒も残さずに食べていたことに感銘を受け、食育の重要性を改めて実感した。子どもの食に携わる仕事に誇りとやりがいを持ち、学校給食の充実に努めていただきたい。

発表1 「第18回全国学校給食甲子園に参加して」

妙高市立新井中央小学校 栄養教諭 岡田小野江

全国学校給食甲子園では、地場産物のアスパラ菜を余すことなく使うなど、地域の食材を無理なく無駄なく使い、おいしい献立にすることができた。決勝大会では、作業工程を見直すことで盛り付け方などの工夫に時間をかけることができた。大会を通して、子ども、学校職員、保護者、地域の方の給食・食育への興味・関心が高まった。今後も、生産者との協働を大切に、妙高愛あふれる給食・食育の充実に図りたい。

発表2 「新潟県食に関する健康課題対策支援事業実践発表会の指導をして」

新潟市立桃山小学校 栄養教諭 齊藤公二

個別的な相談指導の実施にあたっては、先行実践を積んでいる経験者の指導・助言を参考に、研修などで自己研鑽しながら経験を重ねていくことが重要である。また、食に関する指導の全体計画への位置付けなどの実施環境を整備していくことも大切である。栄養教諭として関わることのできる場面を見極め、エビデンスに基づく専門的な知識・視点をもとに、栄養教諭等全員が実践を積み重ねていくことが望まれる。

講義 「新潟県における教育課題と栄養教諭・学校栄養職員に期待すること」

新潟県教育委員会義務教育課 課長 大島一英 様

新潟県の教育課題と目指す学校教育の重点、そして、栄養教諭指標などについてご講義いただいた。栄養教諭等は、食に関する指導と給食の管理という専門性の高い職務を担っている。教職員、家庭、地域が協力しながら、給食を活用した食に関する実践的な指導を行い、子どもに望ましい食習慣と自己管理能力を身に付けさせていただきたい。また、食物アレルギー対応などについても、危機管理・リスクマネジメント管理をしっかりと行っていただきたい。

発表3 「『キラッと新潟米☆地場もん献立』を実施して」

十日町市教育委員会教育文化部学校教育課学事係 管理栄養士 宮沢毅

「とおかまちメニュー」や「へるっ塩メニュー」を通して、地域の食文化などについて子どもの関心を高める取組、減塩の啓発をしている。「キラッと新潟米☆地場もん献立」では、地域のきのこの魅力を伝えるために、栄養教諭等が市内のきのこ生産工場を見学して食育資料を作成し、給食時間の指導で活用した。今後はこれらの取組に加え、農業体験なども実施していく。

講演 「栄養教諭制度実現に託した願い」

公益社団法人全国学校栄養士協議会 相談役 市場祥子 様

栄養教諭制度の創設に際し、多くの先輩が尽力してきた歴史についてお話いただいた。子どもの健全な成長を願い、「1校1名の学校栄養士の配置・身分は栄養教諭」を目標にかかげ、45年の歳月をかけて栄養教諭制度が実現した。栄養教諭には、子どもが「生涯を健康に生き抜くための、望ましい食習慣を身に付けさせる」という使命がある。子どもの実態を把握し、給食を教材化した食に関する指導と給食の管理を一体化して、積極的に取り組んでいただきたい。